

ランナーズイン（富士登山競走ホームステイ）に関わって

富士吉田市 宮下英司

記憶は定かではないが、確か平成15年頃だったと記憶している。

当時、私は市役所の企画課長の職にあった。

富士登山競走とは私自身関りが深く、昭和50年に一度だけ自分自身も大会に参加したことがある。当時はまだ参加者が700人台で、山頂コースのみであった。五合目まではかなりいいペースで、200位くらいでちょうど2時間ほどであったと思う。これは完走できると思ったのだが8合5勺でダウン。今思えば高山病だったのかも知れない。山頂を目指す気持ちは十分あったが、何としても体が動かなくなってしまいリタイヤしてしまった。

その後、昭和51年には社会教育課（現生涯学習課）に異動となり、大きなイベントの際には当時の社会体育課とともに業務にあたるのが度々あった。そんなことから当然、登山競走にも深く関り、競走まえの山小屋に、協力をお願いにタオル一本持って伺ったことも何度もあった。

本題に戻るが、登山競走の参加者も増加の一途をたどり、参加者が宿泊先を探すのも大変だったと聞いていた。また、市内には民宿等の軒数が少なく市が主催する大会にも関わらず、ほとんどの選手が市外の宿泊先に行ってしまうという現実、当時大会の担当であったH職員から私に相談があり、選手の受け入れを市内の家庭でしようと思うが、市長と相談してくれないかということであった。市長はなかなかいいことだからいいじゃないかとの返事。当初は、旅行業法とか旅館業法などに抵触しないだろうかといった心配もあったが、実費弁償程度の一人3,000円程度であるならばボランティアでのホームステイだろうということで、直ぐに実行に移すことにしたが、言い出しっぱである自分がかかわらない訳にはいかず、最初の受け入れから関わった。最初からなのでかれこれ15~16年くらいになるだろうか。この制度には多くの市民の方々にもご協力をいただき今も継続されている。

長い間選手を受け入れていると色々なことが起こる。最初の選手は北海道札幌在住のMさん、秋田県横手在住のIさんの2人であった。最初はできる限り選手と市民の触れ合いも味わってもらおうと初めた事業だったので、同じ人を連続受け入れないようにとのことから次の年からは、この2人を妹の家で受け入れてもらうことになった。札幌のMさんはそれから毎年妹の家に泊り登山競走に参加して、常に上位に入っている。妹の子供が札幌に住んでいてやはり走るのが好きなことからこのMさんと同じ大会で走ったこともあるとのこと。世の中狭いですね。また、私は市役所に入る前、東京の会社で働いていたのですが、その会社には秋田出身者が多く、たまたま退職して秋田の横手に帰っていた友人が、会社の同期会を秋田でやろうということになり、折角横手まで行くのだからと6年ほど前に最初受け入れたIさんを訪ねたところ、大いに歓待され市内観光や有名な横手焼きそばの店にも連れて行っていただいた。

我が家は毎年各地の選手を受け入れているが、たくさんのエピソードが残されている。その一端を紹介する。北海道の奥尻島から参加したMさん。大会が終了しても家にはなかなか帰ってこなかった。後で聞くと、彼女と一緒に来ていて、彼女は忍野の民宿に、大会終了後に2人で観光をしていて家に帰ったのが暗くなってから。困って大会本部に何度も問い合わせたが、何食わぬ顔をして帰ってきた。これにはさすがに驚いた。埼玉の選手は仕事が終わってから伺いますとのこと。家は民宿ではないので他を当たって欲しいと伝えたところ、仕事を早退したとあって夕方訪問してくれ

た。夜9時ごろ来られたのではそれから風呂と食事、別の方も受け入れていることから2度も食事の準備をすることはできないし、次の日の朝食の準備を考えたらとても無理な話であった。それからは、事務局にお願いし、できるだけ遠方から参加する選手をお願いした。こういった選手の受け入れをするとよくCATVの取材がある。広島から参加の郵便局員さん、取材の「どうして民泊をえらんだのですか？」の問いに「安いから」との返答。せめて世辞でもいいから「家庭的な雰囲気が味わえて…」位のことは言って欲しかった。神戸の大学生5人はワンボックスカーでやって来た。困ったと思ったところ、そのうちの1人だけが我が家に宿泊し、残りの4人は忍野の民宿だそうである。とにかく色々な選手がいる。

そうは言ってもここ数年は北海道函館のNさんと、福岡市のMさんの2人を決まって受け入れている。帰るときにはまた来年もと言って帰っていく。この2人とは半端ない量のホタテや辛子明太子が毎年届く。私も毎年市で発行している富士山のカレンダーと秋になればブドウを送っている。こうした交流が富士吉田をよく知っていただくことにつながるのだと思う。

これまで欠かさず選手の受け入れができたのも妻の存在が大きい。スタート時間を考慮すると朝4時半ごろに食べなければならず、逆算すると2時ころ起きて準備をしなければならない。前日の夕食の支度、片付け、また、選手にスタミナがつくとともにお腹に負担がかからないメニューはと、一週間前位から悩んでいる。まったく頭が下がる思いである。

私も古希を過ぎた。選手の受け入れにはかなりの体力も必要なことから、そろそろこの受け入れも卒業を考えなければと思っている。(令和2年10月28日記)